シリーズ・病院

国際親善総合病院（横浜市泉区）

松井矢寿恵

当院は、相鉄線二俣川～湘南台間を結ぶ「いずみ野線」の弥生台駅から徒歩７分の、庭先に季節の花々があふれ咲く閑静な住宅街の一角にあります。シャトルバスはありませんが、都会ではないので比較的駐車場が広く、車で通院される方、ご近所から散歩がてら徒歩で通院される方が多い印象です（なので自転車置き場が狭い！）。駅前には相鉄ローゼン、コンビニ･100均などがあり、個人経営の店舗が点々と道沿いに並んでいます。高い建物が少ないので空が広く、サテライトクリニックに向かう際に道中花々を愛でつつ、平日日中に短いながらも気持ちの良い散歩ができることを秘かに楽しみにしています。

病院の沿革については、2014年に本誌において前部長である山田裕道先生が、病院創立150周年(2013年)を記念して、こと細かに解説されています。ご興味のある方は本会報第21号をぜひお読みください。横浜元町あたりを散歩するのが待ち遠しくなりますよ。

手短には、当院は1990年５月８日に横浜市中区相生町より現在の泉区西が岡に移転開院しました。300床を有し、血液浄化・透析センターや、緩和ケア病棟も稼働する急性期総合病院です。2017年には弥生台駅前にサテライトクリニック“しんぜんクリニック”も開院し、院内院外での地域医療に貢献しています。

当皮膚科は移転開院時から2019年までの30年間、山田先生により、長らく守られてきました。一般皮膚科医療とともに、早々からレーザー治療を導入し、多くの女性たち（もちろん、おじさまもいますが）のお悩みを治療してきました。現在病院皮膚科外来

前列左より李民先生、筆者

にはロングパルスアレキサンドライトレーザー、CO_2レーザー、しんぜんクリニックにQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、山田先生がご退職された後も、シミ治療や医療脱毛を主体に治療を続けています。

現在のスタッフは筆者と、李民先生の常勤医師２人体制で病院診療業務とサテライトクリニック業務（山田先生にも助けていただいております）をおこなっています。

医局人事ではないので、お互い協力しながらやりくりしている状態です。皮膚科が診療業績を上げられないことに対して、病院側が一定の理解を示していただけているのが救いです（笑）。

専門外来は設けていません。難治性のアトピー性皮膚炎に対してデュピルマブ投与の方が徐々に増えてきました。重症乾癬／乾癬性関節症のBIO治療については、代替わりしてすぐにコロナ禍となってしまったため、生物学的製剤使用承認施設の許可取得に未だ踏み切れず、必要と思われる方は近隣承認施設へご紹介させていただいております。その他皮

病院外観

膚生検、小手術などのご依頼に対応しています。症状の重い帯状疱疹や、水疱性類天疱瘡、蜂窩織炎や糖尿病性壊疽など入院加療をしていますが、これはという重症薬疹や悪性腫瘍などは近隣の大学病院等へご紹介させていただいております。

最近はフィリピン、ベトナム、中国の方が増えてきています。中国語であれば、通訳なしで診療可能です（ただし確率1/2ですが）。診療中に隣のブースから凄まじい中国語の応酬、たまに“んん？　何語？”、そして最後になぜか「お大事にー。ありがとう」とお互い日本語での決め言葉？　不思議感満載な日常です。当院名の冠たる国際親善にとても貢献しているようです！

微力ではありますが、地域医療のお役に立てればと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

国立病院機構相模原病院（相模原市）

大松華子

相模原病院は、小田急線の小田急相模原駅から徒歩約15分のところに位置しています。小田急線には特急、快速急行、急行、準急、各駅停車（順番に停車駅が多くなる）と５種類の電車がありますが、小田急相模原駅には各駅停車しか停車しないため乗り換えは不便であり、やや残念な印象があります。加えて、最寄り駅から病院まではまっすぐな道をひたすら歩くのですが、舗装が悪いのでヒールでの歩行は困難であり、また歩道の幅が非常に狭いため、気をつけないとバスにひかれそうになり、危険です。小田急相模原駅と近隣の複数の駅からバスが出ていますが、特に朝は渋滞がひどく、歩くよりも時間がかかることもありますので、バスの便がいいとは言い難いです。そして病院の建物はとても古く、病棟は2009年竣工ですが、外来棟は築数十年経過しており、数年前から外来棟建て替えの計画が出ているものの費用面で折り合いがつかず、計画は暗礁に乗り上げています。こう書いてくるとかなり絶望的な気分になってきますが、ソフト面はとても充実しており、職員には「いい人（親切な人）」が多いです。病院に愛着を持っている職員も多く、季節ごとに一生懸命病院を飾り付けたりしている姿をみると心がなごみます。こういった温かな雰囲気が伝わるのか、近隣の患者さんには当院のファンも多く（と、私が勝手に思っているだけかもしれませんが……）、これだけ交通の便が悪く、ハード面も充実しているとは言い難い当院に、有難いことに毎日たくさんの患者さんが来院されます。

当院の歴史は古く、1938年に臨時東京第三陸軍病院として創設され、1945年に国立相模原病院、2004年に現在の「独立行政法人 国立病院機構相模原病院」となりました。もともとが陸軍病院だったためか、非常に敷地が広く、駐車場もたくさんあります。また緑豊かで、桜の木がたくさん生えており、春は満開の桜がとてもきれいです。COVID-19患者さん受け入れ用ベッドの関係で一時的に減っていますが、基本の病床数は458床です。病院がある相模原市は政令指定都市ですが、市立病院がなく、近隣の北里大学病院、相模原協同病院、当院が地域の中核病院となっているようです。というわけで、重症・救急の患者さんもたくさん受診されるのですが、当院には糖尿病内科・血液内科の常勤医がおらず、腎臓内科も人手不足（本来はリウマチ内科医の先生が、今年度からお一人でコンサル専門のような形で腎臓内科をされています）のため、全ての領域をカバーするのは難しいです。皮膚科に関しても、化学療法が必要なリンパ腫、血漿交換が必要な重症水疱症・薬疹の診療はおこなっていません。

皮膚科スタッフ

逆に強みは免疫・アレルギー領域です。当院はリウマチ・アレルギーの準ナショナルセンターであり、伝統的にリウマチ科（膠原病内科）とアレルギー科（呼吸器・アレルギー内科）が有名です。当科的には、乾癬や掌蹠膿疱症患者さんの関節病変の評価や、膠原病や全身性血管炎を疑った患者さんの内臓病変管理をリウマチ科の先生にお願いすることが多いのですが、快く診療下さるので、とても助かっています。また生物学的製剤使用に伴う結核・間質性肺炎関連の診療はアレルギー科（呼吸器内科）の先生にご相談させて頂くことが多く、当科中心に考えるのは如何なものかとは思いますが、皮膚科医にとっては非常に診療しやすい環境だと感謝しています。

皮膚科は常勤２名、非常勤３名の計５名で診療を行っています。病院方針もあり、数年前から外来は

節分時の院内飾り付け（職員の手作りです）

「完全予約制」としています。初診は紹介状持参の患者さんしかお受けしておらず、診断確定・治療方針決定後は、軽症疾患の場合は逆紹介させて頂いています。通院されているのは急性期か慢性期でも重症疾患の患者さんが主で、全身療法が必要なアトピー性皮膚炎・乾癬、自己免疫性水疱症、手術目的の皮膚腫瘍の方が多いです。皮膚悪性腫瘍に関しては、切除で完治可能な症例は拝見していますが、化学療法・放射線療法が必要な患者さんは拝見していません。上述のように小康状態となった患者さんは逆紹介しておりますので、新患（紹介患者さん）がいらっしゃらないと患者数は減少してしまうのですが、有難いことに連日多くの患者さんをご紹介頂いており、近隣の先生方には大変お世話になっております。

最近の課題（問題？）は、ベッドが確保しづらいことでしょうか。COVID-19流行前は10名／日程度入院患者さんがいらしたこともあるのですが、流行後はベッド確保が困難となり、入院をお願いしても「ベッドがないです。なるべく外来でお願いします」と言われ、困ることが多いです。致し方がないことではありますが、しばらく皮膚科の入院患者数は増えないのではないかとため息をついています。

とりとめのない内容となりましたが、紹介・逆紹介では近隣の先生方にお世話になり、普段の診療では院内他科の先生方やコメディカルの方達に支えられている毎日です。私達が成し遂げられることはそれほど多くはありませんが、日々、ベストを尽くす所存ですので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

横浜市立大学附属病院（横浜市金沢区）

渡邊友也

横浜市立大学附属病院は、横浜市金沢区の横須賀市寄りに立地しており、病床数674床（一般病床612床、精神病床26床、結核病床16床、臨床試験専用病床20床）、37診療科目を有する特定機能病院です。「市民が心から頼れる病院」として、高度でかつ安全な医療を市民に提供するとともに、質の高い医療人を育成するとの病院理念に基づき、高度急性期医療の充実・強化と地域の病院・クリニックとの病診連携を積極的に推進しています。最寄り駅は横浜シーサイドライン市大医学部駅で、駅と直結しているため、雨の日でも濡れずに受診することが可能です。病院は、2021年「関東の水族館」の人気ランキング２位である横浜・八景島シーパラダイスのすぐ近くに位置しており、皮膚科外来の診察室から外を眺めると、南西に横浜・八景島シーパラダイスが、西を見ると晴れた日には富士山が見え、とても眺望のよい立地環境です。

病院の沿革として、当院は1991年７月に南区浦舟町にあった医学部と附属病院がこの地に移転し、「横浜市立大学医学部附属病院」として開院しました。2005年には地方独立行政法人へ移行し、「医学部」がとれ「公立大学法人 横浜市立大学附属病院」と名称が変更になり、現在に至っています。既に開院から30年以上経過し、建物の老朽化・狭あい化が進んでいること、浦舟町にある横浜市立大学附属市民総合医療センターとの大学病院としての機能を１病院に集約するために再整備構想が進行しています。まだまだ先のことですが、将来この神皮でも新病院が紹介されることになるかと思います。

さて、横浜市立大学皮膚科学教室は、長年に渡り教室の発展にご尽力された相原道子先生が2020年に横浜市立大学学長に就任されたことに伴い、2021年５月より山口由衣先生が第６代教授に就任され、まさに新たな教室の歩みが始まったところです。2022年度は、山口教授を筆頭として教員７名、指導診療医５名、シニアレジデント３名、非常勤３名、博士課程の大学院生７名という体制です。とても大所帯で若い力で溢れており、臨床のみならず研究にも力を注いでいます。

皮膚科スタッフ一同。筆者は前列右から４人目

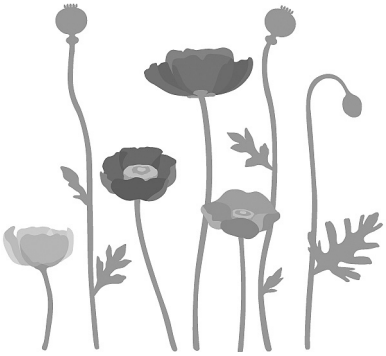
診療につきましては、大学病院という特性上、専門外来が充実しており、膠原病・水疱症外来（火曜PM・木曜PM）、乾癬外来（水曜AM）、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、食物アレルギー患者を担当するアレルギー外来（火曜AM･木曜AM）、腫瘍･リンフォーマ外来（月曜AM･火曜AM）、プリックテスト外来（火曜AM）、パッチテスト外来（月曜PM・水曜PM・木曜PM）があります。その他、木曜日を除いた午後は毎日外来手術を行っており、皮膚生検や小手術を行っています。特に近年では、①膠原病・水疱症などの自己免疫性疾患 ②乾癬 ③薬疹やアトピー性皮膚炎などの皮膚アレルギー疾患 ④腫瘍に力を入れています。膠原病領域の全身性強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデス、血管炎については、診断から入院での検査・治療まで各科と協力しながら皮膚科で治療と全身管理を行っています。また複数の治験にも参加し、最先端の治療を提供しています。山口教授を筆頭に、私も含めて、複数の診療科で構成される全国的な患者レジストリや複数の共同研究に関わり、治験も数多く行っております。正確な診断と最善の治療提供を行うことができますので、積極的に患者さんをご紹介頂ければと思います。

乾癬も当教室が得意とする分野です。乾癬領域では、現在数多くの生物学的製剤が上市されています

が、個々の患者さんの背景や合併症を考慮した薬剤の選択と適切な治療を行っています。当科では生物学的製剤の導入を入院で行い、治療前の皮膚や関節の評価と自己注射の指導を行い、患者さんの手技に対する不安を和らげる工夫をしています。

薬疹については、以前と同様にSJS/TENなどの重症薬疹を積極的に受け入れ、各科と連携しながら治療して参ります。もし重症薬疹が疑われる患者さんがいた場合は、直ぐにご連絡頂ければと思います。アトピー性皮膚炎については、外用方法やアトピーの基礎知識をレクチャーするアトピー教育入院を行うとともに、外用療法や光線療法で効果不十分な患者さんには生物学的製剤やJAK阻害薬などの最新治療を積極的に導入しています。

悪性腫瘍については、毎週水曜に悪性黒色腫、乳房外Paget病、有棘細胞癌などに対して全身麻酔での切除術＋センチネルリンパ節生検やリンパ節郭清を行っています。また、術後補助療法として、免疫チェックポイント阻害薬をはじめとした抗癌剤治療と放射線治療を行い、治療成績の向上を図っています。

何か少しでもお困りの症例がありましたら是非、積極的にご紹介していただきたく存じます。これまで以上に地域の基幹病院やクリニックの先生方と密に連携を図り、症状が改善しましたら、また逆紹介させていただくなど、病診連携を推進してまいりますので何卒よろしくお願い致します。

山口新教授のもと、新しい体制が始まったばかりですが、少しでも市民の皆様や地域の先生方に頼りにされるよう教室員一同頑張っていこうと思っておりますので、今後とも何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。